

## 小学生軟式野球選手に対するメディカルチェックに関する検討

○大隈 乙<sup>1)</sup> (体育系大学 4 回生), 松岡紗也香<sup>1)</sup> (体育系大学教員),  
相澤 徹<sup>1)</sup> (体育系大学教員, 整形外科医), 大井 雄紀<sup>2)</sup>, 高木 陽平<sup>2)</sup>,  
戸祭 正喜<sup>2)</sup>, 吉矢 晋一<sup>2)</sup>, 山口 睦弘<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> 武庫川女子大学 文学部健康・スポーツ科学科

<sup>2)</sup> 兵庫医科大学 整形外科

<sup>3)</sup> 大阪労災病院 超音波検査室

### 【目的】

成長期の野球選手において上肢の関節の骨軟骨部に障害が多発し, その病期が進行すると以後の日常生活に著しい障害を遺す可能性が高いことが報告されている。原因として未熟な投球動作やオーバークース等があげられ, 早期発見早期治療の観点から定期的なメディカルチェックは不可欠であると考えられる。我々は 2004 年より兵庫県西宮市で小学生軟式野球選手に対して継続してメディカルチェックを行なって来た。今回, 現場検診の信頼性より高める工夫として超音波検査を導入し, これが障害の早期発見に有用であるのかについて検討した。

### 【対象および方法】

兵庫県西宮市少年軟式野球連盟に所属する全選手を対象とした。2007 年 5 月にメディカルチェックを希望した 330 名に問診, 医師による検診, 超音波検査を行なった。超音波検査では主に肘関節の骨・軟骨・靭帯の所見を検討した。医師により病院での精査加療 (二次検診) を要すると診断された選手には診療情報提供書を交付し二次検診医に診断名, 治療法および X 線所見等についての報告を依頼した。

### 【結果】

二次検診が必要と診断された選手 75 名のうち, 15 名 (20%) に超音波検査で異常が認められた。36 名 (48%) が二次検診を受診し, 18 名 (50%) に X 線異常が認められた。超音波検査でのみ要二次検診と診断された選手 4 名のうち, 2 名 (50%) が二次検査を受診したが, 共にレントゲン異常は認められなかった。医師による検診診断結果と超音波検査の結果の関連について検討する。